

【第11号】

## タイの駐在環境について（2）

## 【バンコクの住宅事情】

一般的に外国人の場合の住まいの形態は、大きく分けて「アパート」「コンドミニアム」「サービスアパートメント」の3つに分類されます。

共通してセキュリティのための警備員の常駐、管理人がいる家具付き物件が主流です。ほとんどがフィットネスジムやプールなどを完備させている物件が多いです。タイ人の場合は一軒家、タウンハウスに居住していることが一般的ですが、外国人が住むことはまずありません。

## ●アパート

タイでいう「アパート」とは日本の感覚でいえば「賃貸マンション」で建物全体を1人でオーナーが所有している形態です。

## ●コンドミニアム

部屋によってオーナーが違い、部屋の大きさやレイアウト、家具などもオーナーの趣味嗜好によって異なる物件が多いです。

## ●サービスアパートメント

ホテルとアパートの中間というべき形態で、リネン交換や掃除、クリーニングなどのサービス付きアパートメントで単身赴任や長期出張者の方の利用が多いです。

## 【バンコク中心部（スクンビット）の日本人居住区の平均価格（参考）】

## ●コンドミニアム

エリア：トンロー地区  
間取り：1ベッドルーム  
広さ：45㎡  
家賃：約38,000～

エリア：プロンボン地区  
間取り：2ベッドルーム  
広さ：100㎡  
家賃：約53,000～

## ●サービスアパートメント

エリア：アソーク地区  
間取り：1ベッドルーム  
広さ：58㎡  
家賃：約71,000～

エリア：トンロー地区  
間取り：1ベッドルーム  
広さ：58㎡  
家賃：約75,000～

（上記、価格はあくまでも参考であり物件によって異なります）

これらの物件は外個人向けで、セキュリティや設備が充実しているもので、物件のレベルを考えると日本よりは相当安く、住環境も問題ないと思われます。

（次ページへ続く）

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは  
WEBから「ジエグテック」で検索してください

【第11号】

## タイの駐在環境について（2）

## 【バンコクでの教育事情】

子どものいる家庭にとっては、一番の悩みはやはり子供の学力と現地の教育事情だと思います。子どもが育つにつれ、切実になってくるのが教育問題で、海外で子育てをすれば、なおさらだと思います。しかしながら心配は無用で、バンコクは日本と比べても多様な進路が選択可能な環境にあります。

赤ちゃん向けのナーサリー、日本人居住区には幼稚園も複数あり、日本人専用のもからインターナショナル幼稚園まで多くの選択肢があります。

## ①在タイ日本人にとっての幼児教育と子育て環境

子育て支援のための情報誌を発行しているニコラボの田村社長によると日本人学校があるとはいえ、外国であるタイの教育環境、生活環境は、日本国内とはまったく違います。

「母国語としての日本語」が定着するための大事な時期を過ごす子どもたちにとって、外国語や異文化の溢れる環境では、自ずと学習の質が変わってきます。

また、近年あえて日本人学校ではなく、インターナショナルスクールを選択する日本人家庭も増えてきました。教育や子育て全般に関わる選択肢は、日本国内より多岐に渡ると言っても過言ではありません。

また、日本人向けもしくは日本人の入園を許可している幼稚園が、バンコク市内の主な所で13園。インター幼稚園やバイリンガル幼稚園、ローカル幼稚園を加えると、日本人家庭の幼児保育施設の選択肢は40を超えます。これらほぼすべてが、日本人の住むスクンビット・エリア5キロ四方内に収まっています。

## ②習いごとの月謝は、日本とほぼ同額

習いごとの人気は、男の子はサッカー、女の子はバレエ・ダンスです。そのほか、ピアノやテニス、書道や英会話、はてはムエタイ（キックボクシング）や幼児教室まで、幅広い選択肢があるのも、バンコク特有の習いごと環境のひとつです。

気になる学費は、日本円に換算した場合、ほぼ同じ程度の相場と考えてよいでしょう。スクールによっては、むしろ日本のほうが安いと感じるケースも。強気の価格設定の背景には、タイの物価が上がっているだけでなく、多少高くても子どもを通わせたい、というニーズが年々強まっている状況があります。

あるチアダンスの先生によると「小学校低学年のクラスを希望する生徒が年々増えていて、常にウェイトング状態です。でもクラスを増設しようとすると、なかなか曜日が合わないのです。こちらの子どもたちは、毎日どこかで、何かのスクールに通っていて、子どもたちのスケジュールに空いている時間がないほどです」

せつかくの海外駐在生活だからこそ、いまできる習いごとをさせたい、という親の心理が垣間見えますという。

## ③タイならではの教育体制

バンコクには日本国内の小中学校と同等の教育を受けられるバンコク日本人学校があり、タイ国内ではバンコク校とシラチャ校の2校あり、バンコク校では全校生徒が約3,000人に及ぶ大型校になっています。

バンコク日本人学校はタイの学校法に基づく私立学校でありながら、教育課程は日本の文科省が定める学習指導要領に準じて構成されています。

バンコク学習塾のアセス・トンロー校 穂満塾長によるとバンコクの日本人児童数は、バンコク日本人学校（正式名

(次ページへ続く)

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは  
WEBから「ジェグテック」で検索してください

【第11号】

## タイの駐在環境について（2）

称：泰日協会学校）には小学生は約2,500名、中学生は約250名であり、その他、インターナショナルスクールに約1,000名の合計約4,000名と考えており、バンコク内の学習塾は東京から駿台予備校、東海圏から佐鳴予備校が進出しておりタイで開校された泰夢（たいむ）、ネクサス等を含め上位4校で生徒数各校300名以上、合計1,200人以上となります。

そのほか生徒数100名前後の学習塾が10校程度あり、個別では家庭教師も多く100名前後とのこと。

インターナショナルスクールの初年度生徒の補修を目的とした英語塾等もあります。多くの生徒は日本での中・高受験、編入試験等の為に予備校、学習塾へ通っており関東圏、関西圏から来られた生徒は私立中学・高校を志望する生徒が多く、それ以外のエリアから来られた生徒は公立の中・高への志望が多いそうです。取材をした学習塾のアセス・トロー校では個別に勉強のやり方を指導し自分で勉強ができるように生徒を指導しているとのこと。

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



海外企業



大手企業

ジエグテックパートナー企業



国内中小企業

登録・掲載のお申し込みは  
WEBから「ジエグテック」で検索してください